

ニケア信条講話（2）

『父』

◎父なる神と子なる神イエス・キリストの関係について

聖書では、イエス・キリストのことを《言》と呼んでいます。

・「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。... 言は肉となって、私たちの間に宿られた。」（ヨハネ 1:1～2、14）

ヨハネは、神と言を分けていますし、言も神であるといっています。そもそも言葉とは、誰かの言葉であるはずです。その誰かこそ、父なる神であるというのです。キリストは、神のことを《父》と呼んでいます。

・「神を御自分の父と呼んで、御自身を、神と等しい者とされたからである。」（ヨハネ 5:18）

・「私に栄光を与えて下さるのは私の父であって、あなたたちはこの方について、『我々の神だ』といっている。あなたたちはその方を知らないが、私は知っている。」（ヨハネ 8:54～55）

『父』という名をキリストは用いていますが、これは私たち人間の間で用いられる『父』という言葉とは性質が違います。人間の場合には、ある人が子供の父であり、同時に両親の子であるということがあります。子供が産まれた時から、人は『父』になります。ところが、神の場合には、ある時点から『父』になったのではありません。神は永遠に『父』と呼ばれます。始まりも終わりもありません。また、父なる神は『子』になることもありません。神の場合の『父』-『子』という言葉は、人間関係の言葉ではなく、全ての《源》という意味で『父』と呼び、その源から、永遠の初めから生まれていた者としてキリストを『子』と呼びます。故に『父』は生む者であり、『子』は生まれた者です。しかしその誕生は永遠の誕生です。キリスト神は、創造物(造られた者)ではなく生まれた者なので、父に対する子と呼ばれるので

す。実に、造る者と造られる者は性質が違いますが、生む者と生まれる者は同じ性質（神性）を持っているからです。

『天と地、見えると見えざる万物の造り主』

①. 【神が世界の創造主であることについて】

- ・「天地を造り、海とそこにあるすべてのものを造られた神を。」
(詩編 146:6)
- ・「世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。」
(使徒 17:24)
- ・「どんな家でも誰かが造るわけです。万物を造られたのは神なのです」(ヘブライ 3:4)

②. 【無からの創造について】

- ・「子よ、天と地に目を向け、そこにある万物を見て、神がこれらのものを既にあったものから造られたのではないことを知っておくれ。」(マカバイ記二 7:28)
- ・「初めに、神は天地を創造された。」(創世記 1:1)
- ・「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、…」(ローマ 4:17)
- ・「信仰によって、私たちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。」(ヘブライ 11:3)

③. 【世界は時と共に創造されたことについて】

- ・「山々が生まれる前から、大地が、人の世が、生み出される前から世々としえに、あなたは神。」(詩篇 90:2)

④. 【三位一体(至聖三者の各位)の神が創造に与ったことについて】

- a. [父なる神によるもの]
 - ・「私たちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、私たちはこの神に帰って行くのです。」(1 コリント 8:6)
- b. [子なる神イエス・キリストによるもの]
 - ・「万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。」(ヨハネ 1:3)
 - ・「天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、

王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。」

(コロサイ 1:16)

・「神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。」 (ヘブライ 1:2)

c. [神・聖霊によるもの]

・「神の霊が私を造り、全能者の息吹が私に命を与えたのだ。」

(ヨブ 33:4)

・「神の霊が水の面を動いていた。」 (創世記 1:2)

・「御言葉によって天は造られ、主の口の息吹によって天の万象は造られた。」 (詩篇 33:6)

・「あなたは御自分の息を送って彼らを創造し、地の面を新たにされる」 (詩篇 104:30)

●聖イレナエウスは「子と聖霊は神の両手である。」とっています。聖バシレイオスは「創造されたものの根源的原因を考えてみなさい—それは父です。創造の働きの元と原因を考えてみなさい—それは子です。創造を完成させる原因を考えなさい—それは霊です。以上のようなわけですから父の意志によって、天上の諸天使は存在し、子の働きによって彼らは生命に達し、霊の現存によって完成されるのです。」といます。

聖アタナシウスは「父は子によって霊のうちに万物を創造しました。なぜなら言のあるところに霊もあり、父が産出する存在者は子によって霊のうちに存在するようになるからです」とっています。

三位一体のこの活動によって、被造物は単に存在するだけでなく、善と完全性に向かう力を得て『善く在る』ようになるのです。

⑤. 【創造は必然的なものではなく、意志の働きによるものである】

●『出生は本性的働きであり神の本質自体から発出するのですから、初めもなく永遠的です。そうでなければ生み出す者は変化する者となってしまう、先である神と後に来る神とが存在することになるでしょう。神は成長する者となってしまうのです。ところで創造とは意志の働きなのです。だから創造は神のように永遠的なものではありません。なぜなら無から存在へと呼び出されたものは、起源もなく常に存在するものと共に永遠にあることができないからです。』

(7世紀ダマスコのヨハネ)

被造物はその起源からして、一つの状態から他の状態へと移り変わる存在にできています。神は創造するに当たって何か本性的必然性によって動かされたものではありません。

被造物は存在しないこともありうるし、また神は創造しないこともできたのです。創造とはあくまで神の意思の自由な働きであって、《神の意志》だけが存在者の唯一の存在理由です。神が望まれる時、神の意志が一つの作品となります。このことは神の全能の力によります。神がその知恵と創造力において何かを望むやいなや、この全能の力は必ず現実化されるのです。

・「その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。」(マタイ 10:29)

・「主の言葉は永遠に変わることはない。」(一ペトロ 1:25)

神の言葉は永遠に変わらないのだから、被造物はいつまでも存続するでしょう。死とか破壊は無へ帰ることではありません。存在様式が変わるだけなのです。

⑥. 【神による創造の目的とは】

神は愛であり、善であり、自ら完全にして極めて美しい方ですが、創造物にご自身を讃め揚げさせ、ご自身の恵みに与らせようとして万物を無から創造されました。すなわち創造の目的とは、

- (1) 創造主なる神の栄光を被造物を通して現すため。
- (2) 被造物にご自身の善・恵みを与えるため。

神はあえて人間を、被造物を有限な存在として創造しました。その理由は、被造物が自分を超えたところに目的をもち、何らかのものに向かって絶えず運動させるためです。違いと多様性のあるところにも運動があります。神だけが絶対の安息の中におられます。神は、被造物がご自分を愛し、求めるようにされているのです。

神によって創造されていること自体が《恩恵》なのです。すなわち、私たちの体内に、すでに神や神から来る恩恵を受け入れ、求める力を神は植えつけておられるのです。世界は神化に向かってすでに創造さ

れており、予定されている窮極目的へとダイナミックに向かっているのです。この創造目的が、御子キリストによって顕になりました。言なる神は、万物に現れ、万物をご自分と一つにし、聖霊によって万物を神と一致させてゆくのです。父の言である彼自身が、自らこの世に現れて、究極目的を成就させるのです。

被造物の最終的な目標は、神との一致・神化にあります。最初のアダムは神に向かって生きるという秩序と目的(方向性)を失ったので、この世は無秩序に陥りました。被造世界の秩序は人間の罪によって乱され、呪われてしまいました。

- ・「被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意思によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。」（ローマ 8:20）
- ・「お前のゆえに、土は呪われるものとなった。」（創世記 3:17）

そこで第二のアダムといわれるキリストは、その無秩序を回復するために来られました。彼は唯一人、神の完全な像そのものであり、神が創造された人間の本来の形であり、彼だけが真の人間なのです。この第二のアダムといわれるキリストは、洗礼を通してすべての人間をご自分と一体にすることによって、古いアダムを新しいアダムに変えられるのです。新しいアダムを生み出すことによって、これらによって自然界の秩序は回復されてゆくのです。

- ・「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。...生き物をすべて支配せよ。」（創世記 1:28）
- ・「被造物は、神の子たちの現れるのを説に待ち望んでいます。」
- ・「被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。被造物たちがすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、私たちは知っています。」（ローマ 8:19、19:21～22）

⑦. 【見えない世界の創造について】

神は最初、見えない世界を創造され、その後、6日の間に物質世界を創造されました。

- ・「初めに、神は天地を創造された。」（創世記 1:1）

2節からは《地》の創造のことが説明されてゆき、「水の中に大空あれ」(6)、「神は大空を天と呼ばれた」(8)、「神は二つの大きな光る物と星を造り」(16)と大空、太陽、月、星が創造されており、最初の天と区別されています。この天は宇宙ではなく、天使たち・霊的存在者たちの世界、彼らがいる神の国を意味します。

・「天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。」(マタイ 25:34)

神は最初に、天使たち・霊的存在者たちを創造されました。

・「その時(大地を据えた時)、夜明けの星はこぞって喜び歌い、神の子らは皆、喜びの声をあげた。」(ヨブ 38:7)